

<<<<<<<調査会ニュース Vol.59>>>>>>>(2003.12.6)

訃報

昭和 51 年 8 月 2 日に失踪し、調査会が拉致の疑い濃厚としている山口県宇部市の国広富子さんのお母さん、久保保子さんが昨日逝去されました。享年 76 才。お母さんは最後まで富子さんのことを心配しておられました。再会を実現できなかったことを申し訳なく思います。

お通夜、告別式の日取りは次の通りです。

お通夜 7 日午後 5 時から

告別式 8 日午前 11 時から

会場 宇部葬典社（宇部市松山町 1-7-9 0836-31-0004）

喪主 国広文彦様（ご子息）

<<<<<<<調査会ニュース Vol.61>>>>>>>(2003.12.22)

秋田美輪さんの学籍回復

先週金曜（19日）に当調査会岡田理事に連絡が入ったところでは、神戸松蔭女子大4回生当時の昭和60年に拉致された秋田美輪さんに関し、大学では同日付けで学籍を回復すると決定したとのこと。一刻も早く秋田さんが校門をくぐる日が来ることを期待しています。

大澤孝司さん、山本美保さん家族政府に署名提出

昭和49年佐渡から拉致された大澤孝司さんと昭和59年甲府で拉致され後に柏崎でバツクの発見された山本美保さんの家族がそれぞれの地域で集めた署名を次の予定で政府に提出します。

12月25日（木）13:00 於内閣府拉致被害者・家族支援室

支援室は小熊室長が対応予定（中山参与は未定）

大澤さん側はお兄さん2名と小島晴則・新潟救う会代表をはじめ支援者合計3名）

山本さん側はお母さん、妹さん夫妻および山下滋夫・調査会理事はじめ支援者3名です。調査会代表荒木も同行します。

（報道関係各位）

取材は今回は内閣府のロビーでの撮影と会議室内での署名手交（頭撮り）ができます。取材される方は当日12:50までに内閣府においての上、支援室担当者の指示に従ってください。その他の詳細については支援室にお問い合わせください。

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.62>>>>>>>(2003.12.25)

大澤孝司さん、山本美保さん家族政府に署名提出

昭和 49 年佐渡から拉致された大澤孝司さんと昭和 59 年甲府で拉致され後に柏崎でバッグが発見された山本美保さんの家族がそれぞれの地域で集めた署名を本日二五日午後 1 時内閣府拉致被害者・家族支援室に届け小熊室長に要請を行いました。

12 月 25 日 (木) 13:00 於内閣府拉致被害者・家族支援室

要請を行ったのが大澤さん側はお兄さんの昭一さん、茂樹さんと小島晴則・新潟救う会代表ら支援者の方々、山本さん側はお母さんの文子さん、妹さんの森本美砂さん、美砂さんのご主人の森本直行さんおよび山下滋夫・調査会理事はじめ支援者の方々です。代表荒木、常務理事杉野らも同行しました。

提出された署名は大澤さんの側が 22813 人分、山本さん側が 125500 人分、合計 148313 人分でした。要請文書の内容は以下の通り。

(大澤さんの要請文)

内閣官房参与 中山恭子様

要請書

「特定失踪者問題調査会」が 9 月 25 日に「拉致濃厚」と「認定」した 16 名の一人、大澤孝司(当時 27 歳 新潟県庁職員、昭和 49 年 2 月 24 日佐渡新穂村で失踪)について新潟県警に於いても「北朝鮮による拉致容疑濃厚」の線で再捜査続行中と承っております。

事件発生からすでに 30 年です。家族は父 福一郎(93 歳)の元気なうちに救いたい一念で全力を尽くしております。

今春 3 月、地元の「巻町文化会館」で、救う会佐藤勝巳会長を迎え、800 余名が集い、「救出」を誓い、来春 3 月同会場で調査会、荒木代表、家族会横田代表らを招き「第 2 回集会」を予定しています。

どうか「救出の念願」が一日も早く実現しますように、此処に「嘆願署名」22・823 名分を提出し、お願い申し上げます。

平成 15 年 12 月 25 日

「大澤孝司の家族」 兄 大澤昭一

次兄 大澤茂樹

「大澤孝司さんと再会する会」 代表 川村 保

「大澤孝司さんの同窓代表」 宮崎直樹

横田めぐみさん等拉致日本人救出新潟の会 会長 小島晴則

(山本さんの要請文 宛て先は総理・外務大臣・関係閣僚・中山内閣官房参与宛で別々のものを渡されましたが内容は同じです)

謹啓

内閣官房参与におかれましては、日頃より「拉致問題」に関しまして、並々ならぬご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、私どもの家族であります山本美保は、19年前に「図書館に行ってくる」と言い残して家を出たまま行方が分からず、昨年来拉致の疑いが持たれております。先日、特定失踪者問題調査会において美保を含む16人の「拉致濃厚」の発表がなされ、政府にたいし「拉致認定」の申請をしていただいたところです。

その節は、大変お忙しいところ、ご対応くださり、ありがとうございました。

過日の北朝鮮に関する六カ国協議におきましては頑なな北朝鮮の態度には抑えきれない怒りも感じるころではありますが、諸国の理解と働きかけにより再度協議を続ける確約を得たことは、大きな前進だと思っております。安易な条件に乗るとなく、確実に問題解決の道筋を進めていって欲しいと切に願っております。

当面の課題は昨年10月に24年ぶりに無事帰国をはたされ、尚ご家族と離れ離れの生活を強いられている蓮池さん、地村さん、曾我さんのご家族が一刻も早く救出されることであり、私どももそれを強く願っております。

しかしながら、私ども未認定の家族としての一番の懸念は、5人の方のご家族が救出された段階で、この拉致問題は終結を迎えてしまうのではないかということです。そうしましたら、美保も含めた370人余りの特定失踪者の問題は、闇の中に葬られてしまうこととなります。

拉致は重大な人権侵害であり、北朝鮮の国家犯罪です。相手がどんな国であれ、核の脅しなどに屈することなく、人権尊重を訴え、国際世論の力を借りて正攻法で戦えるはずだと思います。安易に国交正常化に踏み切ることなく、全ての拉致された人々が無事救出されるまで、ねばり強い交渉を続けてほしいと思います。

どうか、拉致問題と同様に特定失踪者の問題も同じ事案として深く心に留めていただき、その真相と所在が明らかにされるまで、国の責任においてねばり強く対応してくださいませようをお願いいたします。

韓国においても五百人近い拉致被害者がいるといわれ、家族も含めて今尚くるしんでおります。日本と韓国が連携し毅然とした態度で、拉致問題の全面解決に迫る体勢を作っていただきたいと思っております。

さらに、難しい国際ルールもあるかとは思いますが、日本の警察、または国際警察が北朝鮮に入り捜査することはできないのでしょうか。どうか、家族の切なる気持ちを御汲みいただき、実現に向けてご尽力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

この難しい問題に取り組んでいくに当たっては、家族も自らの生活や仕事を犠牲にしているのが現実です。先日、拉致濃厚といわれた方の家族が集まった際やはり生活の維持ができるかという

思いは、共通の不安事項でした。将来、問題の長期化の中で、活動と生活維持の両立ができるかという不安は常につきまとい苦しんでおります。

拉致被害者及び特定失踪者の家族に対して社会全体のご理解とご支援がいただける環境作りにお力添えいただきたいとおもいます。全体解決のメドが立っていない今、家族救出の運動を長期的に続けていくためのバックアップ態勢を是非とも作っていただけますよう、せつにお願い申し上げます。

今年のはじめ病床に倒れた美保の父親が、あと一年と宣告された時、焦りとともにもしかしたら一目だけでも間に合うかもしれないという一縷の希望を持ち続けました。しかしながら、急速に進んだ病状は、その望みさえも無残に打ち砕き、五月父親は帰らぬ人となってしまいました。

先日も拉致濃厚の方の妹さんとお会いし、共に姉の再開めざしてがんばりましょうとはげましあった矢先、そのお母様が亡くなりました。

無念でどうしようもありません。

ご理解いただいているとは思いますが、私たち家族は年老いていく親の年齢を止めることはできません。あまりに時間がないのです。

何とぞ、家族の心情をご理解いただき、一刻も早い救出の実現のために、お力添えをいただけますよう、切にお願い申し上げます。

敬具

平成十五年十二月二十五日

内閣官房参与 中山恭子殿

山梨県甲府市長松寺町十二-十四

山本 文子(母)

森本 美砂(妹)